

卒業論文

性的マイノリティの社会的権利の獲得過程に関する一考察
——パートナーシップ宣誓制度から——

2017年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野

2021年1月提出

要約

本論文では、福岡市のパートナーシップ宣誓制度の妥当性や、当事者が抱える課題を明らかにすることで、福岡市のパートナーシップ宣誓制度は誰のものであり当事者にどのような影響を与えていているのか、また、今後より当事者の希望にかなうように発展するとしたらどのようなステップを踏むことが想定されるか、もしくは当事者の理想とするものに近づくためにどのような行動を行政がするべきかを明らかにした。

はじめに、性的マイノリティについて、当事者の方が直面する生きづらさを場面ごとに整理し当事者を取り巻く現状を把握した。またそれに加え、非当事者からみた性的マイノリティに対する意識や理解の経年変化をまとめた。年代や性別や属性などから性的マイノリティに対する意識の変化を整理した。同性婚に賛成する割合は全体の過半数いることが判明した。そして、アメリカでの同性婚法制化から諸外国が同性婚法制化に至るまでのプロセスを整理した。諸外国では、同性婚を実現するためには、ソドミー法の廃止/差別禁止法/登録パートナーシップ法/同性婚という段階を踏むことが必要なプロセスであると指摘されており、このプロセスを踏む中で経験を重ね、同性愛者の存在やその生活の可能性を高めていくことによって社会やコミュニティに深刻な亀裂を生じさせることなく同性婚の実現が可能と判明した。

次に、本論文の鍵となるパートナーシップ制度の歴史や成立にいたるまでの国単位での動きや福岡市単位での動きを時系列に整理した。世田谷区や渋谷区のパートナーシップ制度と並列することで当事者の理想を取り込んだ制度ではないのではないかという仮説の根拠を示した。

次に、当事者を支える LGBT 委員会代表の方と、当事者でありながら当事者団体や当事者支援事業を行う会社を経営している方にインタビュー調査を行い、パートナーシップ宣誓制度が行政主導で行なっているなかで当事者の理想をかなえたものになっているのか、同性婚法制化のステップとして妥当かを、当事者のための無料相談のお話や、パートナーシップ宣誓制度成立当時と現在のことを伺うことで明らかにし、そこからこれからどのようなステップを踏むと同性婚法制化に近くのか、諸外国のプロセスは日本にも応用可能か検討しながら分析することで性的マイノリティの理想とそれに近づくためのステップを明確にした。

パートナーシップ宣誓制度制作時、当事者の方が持つ理想が明確ではなかったこと、明確ではなかったができる限り当事者の意見を汲み取った制度を成立させたことで、当事者が理想状態を明確に持ちそれに対して行動を起こす後押しの役割をパートナーシップ宣誓制度がになったことが明らかになった。制度としてみればそれで満足できるような制度ではないが同性婚法制化のための今後のステップを考えた上では、妥当なステップではないだろうかということがいえる。また、民意が賛成過半数に傾いている現状からそれを国会

に可視化する動きが求められていることが明らかになった。理想とするものは、同性婚法制化と差別禁止法の成立であり、その理想をもち当事者が行動する契機にパートナーシップ宣誓制度はなった。そして、過半数が賛成しているというのは性的マイノリティの存在を理解する段階を踏んだということで本質的な平等を求める声に変化する必要があるという仮説を述べ、本論文の結びとする。

目次

1.はじめに 福岡のパートナーシップ宣誓制度から.....	1
2.先行研究.....	2
2.1 セクシュアリティ.....	2
2.2 性的マイノリティが経験する生きづらさ	3
2.2.1 教育現場での生きづらさ.....	4
2.2.2 職場での生きづらさ	6
2.2.3 カップル・養育・死別・相続.....	7
2.2.4 高齢・医療.....	8
2.2.5 家庭での生きづらさ	9
2.3 性的マイノリティに対する意識の変化.....	10
2.3.1 性的マイノリティに対する認識.....	11
2.3.2 友人に対する抵抗感.....	12
2.3.3 同性婚の賛否について.....	13
2.4 アメリカが同性婚法制化にいたるまで.....	13
3.パートナーシップ制度について	15
3.1 同性愛者に対する国と地方の対応.....	15
3.2 日本のパートナーシップについて.....	15
3.3 渋谷区のパートナーシップ制度のはじまり	16
3.4 世田谷区のパートナーシップ制度のはじまり	18
3.5 福岡市のパートナーシップ制度	19
3.6 パートナーシップ制度導入以後.....	24
4.調査の概要.....	25
4.1 調査の目的.....	25
4.2 調査対象者.....	25
5.調査・分析.....	26
5.1 石井謙一さん	26
5.1.1 石井謙一さんとLGBT委員会の紹介.....	26
5.1.2 石井謙一さんの語り.....	26
5.2 五十嵐ゆりさん	30
5.2.1 五十嵐ゆりさんの紹介.....	30
5.2.2 五十嵐ゆりさんの語り.....	31

6. 考察	34
6.1 パートナーシップ宣誓制度が与えた影響とその評価	34
6.2 みえてきた課題	34
6.3 これから踏むべきステップ	35
参考文献	35
謝辞	37